

いしや先生

町おこし映画顛末記

あべ 美佳

みんな単純なことこそ、われには修行だった。これまで、人生はなかなか思い通りにいかないなあと思つていたけど、今は「人生は思うようにしかならないんだ」と心から思う。劇場に溢れるお客様、割れんばかりの拍手、笑い声と涙、人が集まつてくる活気ある町、じんちゃん。ばんちゃん。の笑顔……こういった共通の成功イメージは、われわれの中に常にあつた。だから、夢物語だとバカにされても、続けてこられたのかもしね



「ハツカラーダベ」

身をもつて体験することが
できた。何か新しいことに
チャレンジするとき、年齢
も性別も肩書もキャリア
も、なんも関係ない。互
いが尊敬し合い、信じ合え
なかつたら何も進まない。
威張つて文句ばかり言つて
いる人の所には誰もいなく
なり、何をバカにされよう
が信念をもつて動き続ける
人の所には、いつか必ず神
様の祝福のようなメッセー
ジが届く。人生は美にシン
プルだ。世のため人のため
つて、つまりは自分のため
だつたんだ。ああ、もっと
早くにこのことを分かつて
いたら、もっとラクだった
のかもなあ、なーんて。ど
うだつければね、周子せんせ。
もしも、私たちの取り組
みを「成功」と評価して
いただけるのなら、それは
すべて出会つてくれた皆さ
んのおかげ。そして私が一
つだけ誇れるとするならば
「おがしい」と思つたこと
を誰に対しても「おがしい」
と言えたこと。だから最後
にもう一つ、故郷の皆さん
に言わせてもらいたい。――
ここから先は、皆さん次第、
皆さんがそれぞれ頑張る番
ですよ！ と。

映画の打ち上げの席上、
私は地元の方に「お前だぞ、
映画できだがらつて、あど
がらな。お前だちは一生、
この土地の面倒を見らんな
ねんだ。その義理があるん
だ」と言われた。ショック
だつた。映画はあくまで手

段、目的は「町おこし」と言い続けてきた5年間だつたから。町が活気づくための「道具」を、町おこしに活用していただきための「お神輿」を皆で作つてきましたつもりだ。作り終わつたその後はもう、皆さんで活用してもらつしかない。これから町がどう変わつていくのか、私自身も楽しみにしている。それが「次は何してくれるんだ」では、困る。われわれは5年もかけて、故郷の皆さんとの自信と誇りを掘り起こす作業をしてきたつもりだ。「俺たちは素晴らしい地域に住んでいるんだ、祖先はすごい方々だったんだ」そのことを再認識できだし、困難な映画作りも見事にやりきり、「俺たちだって、やればできるんだ」と思つてくれたはず。一さあ、こつからだべ！

に。

（脚本家・作家、尾花沢市出身）

私たちスタッフは、またります

次の現場で頑張る。それはご縁が切れるということではなく、は決してない。現に永江監督は「第二の故郷」と話してくれる。どうか、私たちのこれから活動も見守つてください。よその地域も一緒に盛り上がつていいように自分たちの体験談を話し、伝え、広めていくつてください。もちろん私たちも、一緒に闘つてきた同志・戦友の皆さんをいつまでも注目し、応援していくます。このエッセーの読者も同じでしよう。来年から全国上映も、注目してくださいね。長い間、本当にありがとうございました。故郷の皆さんに、来年も良いことがいっぱいありますように。

（「いしや先生・町おこし映画顛末記」は今回で終わ